

# 第53期 定時株主総会 招集ご通知

日時

平成30年6月15日（金曜日）  
午前10時

場所

兵庫県西宮市六湛寺町9番16号  
当社 本店 大会議室

決議事項

第1号議案 剰余金処分の件

第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）  
12名選任の件



**日本管財株式会社**

証券コード 9728

証券コード 9728  
平成30年5月28日

株主各位

本店 兵庫県西宮市六湛寺町9番16号  
本社 東京都中央区日本橋二丁目1番10号

**日本管財株式会社**

代表取締役社長 福田 慎太郎

## 第53期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第53期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に議案の賛否をご表示いただき、平成30年6月14日（木曜日）営業時間終了の時（午後6時）までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

**1. 日 時** 平成30年6月15日（金曜日）午前10時（受付開始 午前9時）

**2. 場 所** 兵庫県西宮市六湛寺町9番16号  
当社 本店 大会議室（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）

**3. 目的事項 報告事項**

- 第53期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第53期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項 第1号議案 剰余金処分の件  
第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）12名  
選任の件

以上

- ◆ 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◆ 開会時刻間際には会場受付が大変混雑いたしますので、お早目にご来場くださいますようお願い申し上げます。

【インターネットによる開示について】

1. 本通知の添付書類のうち、連結計算書類の「連結注記表」及び計算書類の「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、下記の**当社ウェブサイト**に掲載しております。
2. 本通知の「事業報告、連結計算書類、計算書類及び株主総会参考書類」に修正事項が生じた場合も、下記の**当社ウェブサイト**において、修正後の事項を掲載させていただきます。

株主総会資料

<http://www.nkanzai.co.jp/ir/soukai/>

## 1 企業集団の現況に関する事項

### 1. 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善を背景に緩やかな回復基調が継続しているものの、米国政権の政策動向や新興国経済の減速などの懸念材料も多く、先行き不透明な状況が続いております。

不動産関連サービス業界におきましては、オフィスや商業ビルの空室率は東京都心部や地方中核都市においても改善の兆しが見られ、一部のエリアにおいては賃料の反転上昇が確認されております。また、東京都心部を中心に複合ビルの建て替えプロジェクトが増加しており、当社がターゲットとする市場の将来的な拡大が見込まれます。

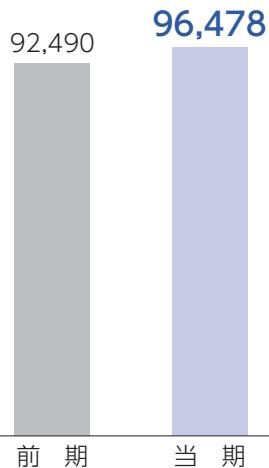
このような事業環境のもと、当社グループにおきましては、新規管理案件の受託では、競合他社との差別化が図りやすい付加価値の高い管理案件を重点的に開拓しております。既存管理案件では、リーマンショック以降、契約先の管理業務に対するコスト意識は残るものの、安全・安心や資産価値の維持・向上の観点から、契約先に対して従前から提供している管理サービスをより一層充実した内容へと進化・改良する提案を行い、業務クオリティの向上と業務範囲の拡大にも取り組みを強化しております。また、主力のビル管理業務の一層の強化・向上を図るとともに、周辺事業においても、PFI事業、省エネルギー事業、環境事業などへの積極的な事業展開を図っております。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は、既存管理案件が高水準で継続したことに加え、工事関連業務の受注も堅調に推移したことにより、964億78百万円(前年同期比4.3%増)となりました。

利益面におきましては、受託単価の伸び悩みや組織体制強化等による管理コストの増加の影響もありましたが、仕入単価の見直しや時間管理の徹底を図ってまいりました結果、営業利益は57億72百万円(前年同期比4.5%増)、経常利益は63億79百万円(前年同期比7.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は44億46百万円(前年同期比5.2%増)と、それぞれ前年同期を上回る結果となりました。

■ 売上高 (連結)

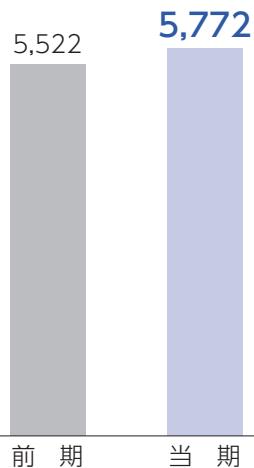
(単位：百万円)



前年同期比  
+4.3%

■ 営業利益 (連結)

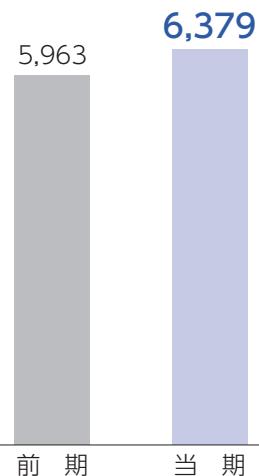
(単位：百万円)



前年同期比  
+4.5%

■ 経常利益 (連結)

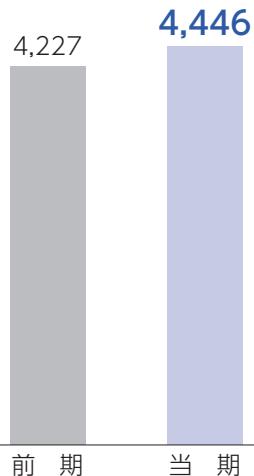
(単位：百万円)



前年同期比  
+7.0%

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)

(単位：百万円)



前年同期比  
+5.2%

## ■ 建物管理運営事業

主たる業務であるビル管理業務及び保安警備の建物管理運営事業につきましては、新規案件の受託は厳しい状況で推移したものの、工事関連業務の受注が増加したことにより、当連結会計年度の売上高は839億75百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

利益面におきましても、受託単価の伸び悩み等の影響もありましたが、コスト管理の徹底を図り、セグメント利益は89億2百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

### ■ 売上高

(単位：百万円)



### ■ セグメント利益

(単位：百万円)



## ■ 環境施設管理事業

上下水道関連施設等の生活環境全般にかかる公共施設管理を主体とする環境施設管理事業につきましては、ゴミ焼却施設等を中心に新規管理案件の受託や契約更改が堅調であったことに加え、大型工事を受注できたことにより、当連結会計年度の売上高は97億57百万円（前年同期比6.3%増）となりました。同事業の主要取引先である地方自治体の財政は依然として緊縮傾向にあり、民間ノウハウの活用余地が大きく、潜在的に大きな市場と捉えております。

利益面におきましても、高原価物件や仕入価格の見直しに加え、適正な人員配置を中心にコスト削減に努めてまいりました結果、セグメント利益は11億34百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

### ■ 売上高

(単位：百万円)



### ■ セグメント利益

(単位：百万円)



## ■ 不動産ファンドマネジメント事業

不動産ファンドの組成・資産運用を行うアセットマネジメント及び匿名組合への出資を主体とする不動産ファンドマネジメント事業につきましては、運用資産の売却に伴う収益は発生しましたが、運用資産売却に伴い運用報酬が減少したことにより、当連結会計年度の売上高は4億63百万円（前年同期比19.8%減）となりました。

利益面におきましても、経費の節減や業務の効率化に努めてまいりましたが、前述の運用報酬が減少したことにより、セグメント利益は84百万円（前年同期比51.4%減）となりました。

### ■ 売上高

(単位:百万円)



### ■ セグメント利益

(単位:百万円)

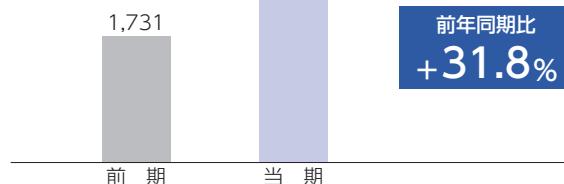


## ■ その他の事業

イベントの企画・運営、印刷、デザインを主体としたその他の事業は、イベント業務の受託増により、当連結会計年度の売上高は22億82百万円（前年同期比31.8%増）、セグメント利益は3億43百万円（前年同期比70.8%増）となりました。

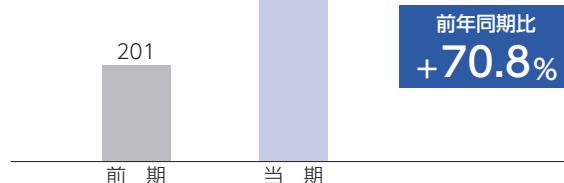
### ■ 売上高

(単位:百万円)



### ■ セグメント利益

(単位:百万円)



---

## 2. 設備投資等の状況

当連結会計年度において実施いたしました設備投資の総額は6億41百万円であり、主なものは事務所等の移転や改修工事及びシステム改修等によるものであります。

## 3. 資金調達の状況

当連結会計年度において、新株式及び社債の発行による資金調達はありません。

当連結会計年度において、新たに2つの匿名組合に出資を行い連結子会社としたことに伴い、当該匿名組合のノンリコースローンが連結貸借対照表に計上されております。ノンリコースローンは、債務履行の責任財産を不動産ファンドの販売用不動産からのキャッシュフローのみに限定し、その他の財産への債務履行請求を行わない借入であります。

## 4. 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

当社は、平成29年7月1日付で、住宅管理事業を完全子会社である日本管財住宅管理株式会社に吸収分割により承継させました。

## 5. 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

当社は、平成29年12月1日付で、完全子会社である株式会社日本管財サービスを吸収合併（簡易合併）し、全ての権利義務を承継しました。

## 6. 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

当社は、子会社である株式会社日本プロパティ・ソリューションズの株式を平成29年6月及び8月に追加取得して、同社を完全子会社としました。

## 7. 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、一部の企業では業績が上向いてはいるものの、経済全体は不透明な状況が続くものと予想されます。不動産関連サービス業界におきましても、取引先企業における管理コストの削減傾向に変化はなく、他社との競合も含め、今後も市場環境は厳しい状況で推移するものと予想されます。

当社グループといたしましては、引き続き営業力の強化や業務の効率化等に努めてまいります。企画提案力を主軸に据え、PFI事業や指定管理者案件などで一層の営業展開を図り、省エネルギー関連事業など新たな市場の開拓にも注力してまいります。サービス品質の継続的な改善にも努め、併せて付加価値の高い提案を積極的に行うことにより、お客様満足度と収益性の向上を図ります。

また、コンプライアンスの徹底と内部統制システムの適切な運用を継続し、更なる企業グループの価値向上に努めてまいります。

## 8. 財産及び損益の状況

区 分	期 別	第50期	第51期	第52期	第53期
		平成27年3月期	平成28年3月期	平成29年3月期	平成30年3月期 (当連結会計年度)
売 上 高 (千円)		87,379,782	90,078,622	92,490,999	96,478,695
営 業 利 益 (千円)		5,423,722	5,227,475	5,522,993	5,772,079
経 常 利 益 (千円)		6,037,034	5,806,829	5,963,496	6,379,409
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)		3,892,051	3,958,214	4,227,391	4,446,828
1株当たり当期純利益 (円)		114.59	116.11	123.51	129.33
総 資 産 (千円)		56,205,072	58,521,810	62,279,754	68,873,435
純 資 産 (千円)		36,262,182	38,699,936	41,464,536	45,203,383
1株当たり純資産 (円)		1,027.33	1,094.66	1,166.11	1,285.05

(注) 平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第50期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」及び「1株当たり純資産」を算定しております。

## 9. 重要な親会社及び子会社の状況 (平成30年3月31日現在)

### ① 親会社との関係

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社スリーエス	50百万円	90.0%	保安警備
株式会社日本管財環境サービス	300百万円	100.0%	環境施設管理
株式会社日本プロパティ・ソリューションズ	400百万円	100.0%	プロパティマネジメント
東京キャピタルマネジメント株式会社	100百万円	100.0%	不動産ファンドマネジメント
NSコーポレーション株式会社	50百万円	90.0%	建物総合管理
株式会社日本環境ソリューション	10百万円	100.0%	建物総合管理
株式会社エヌ・ケイ・ジェイ・ホールディングス	30百万円	100.0%	経営コンサルティング
日本住宅管理株式会社	50百万円	100.0% (100.0%)	マンション管理
株式会社エヌ・ジェイ・ケイ・スタッフサービス	30百万円	100.0% (100.0%)	人材派遣
株式会社沖縄日本管財	50百万円	100.0%	建物総合管理
日本管財住宅管理株式会社	50百万円	100.0% (100.0%)	マンション管理
NIPPON KANZAI USA, Inc.	440千米ドル	100.0%	企業買収及び米国における情報収集

(注) 1. 議決権比率欄の( )内は、間接所有割合(内数)であります。

2. 平成29年4月1日付にて、株式会社エヌ・ジェイ・ケイ・ホールディングスは、商号を株式会社エヌ・ケイ・ジェイ・ホールディングスに変更いたしました。

3. 当社は、子会社である株式会社日本プロパティ・ソリューションズの株式を平成29年6月及び8月に追加取得して、当社の議決権比率を100%としました。

4. 当社は、連結子会社であった株式会社日本管財サービスを平成29年12月1日付で、吸収合併(簡易合併)しております。

### ③ 特定完全子会社の状況

特定完全子会社に該当する子会社はありません。

## 10. 主要な事業内容 (平成30年3月31日現在)

事業セグメント	主 要 業 務
建物管理運営事業	複合用途ビル、シティホテル、分譲マンション等の清掃管理業務、設備保守管理業務、昼夜間の常駐保安警備業務、各種センサーと電話回線を使用し異常発生時に緊急対応する機械警備業務、契約先のニーズによる受付・オペレータ業務
環境施設管理事業	上下水道関連施設、ゴミ処理施設等の生活環境全般にかかる公共施設における諸設備運転管理業務及び水質管理業務
不動産ファンドマネジメント事業	不動産ファンドの運営・アレンジメント、匿名組合への出資、投資コンサルティング、資産管理
その他の事業	イベントの企画・運営、印刷、デザイン、製本、不動産の販売及び売買仲介業務

## 11. 主要な営業所 (平成30年3月31日現在)

日本管財株式会社	本店（兵庫）、本社（東京）、中部本部（愛知）、大阪本部（大阪）、九州本部（福岡）、北海道支店（北海道）、東北支店（宮城）、横浜支店（神奈川）、岡崎支店（愛知）、神戸支店（兵庫）、中国四国支店（広島）
株式会社スリーエス	本社（兵庫）、東京事業本部（東京）、近畿事業本部（大阪）、九州事業本部（福岡）、東北事業部（宮城）、中部事業部（愛知）
株式会社日本管財環境サービス	本社（兵庫）、東京支店（東京）、九州支店（福岡）
株式会社日本プロパティ・ソリューションズ	本社（東京）、大阪支店（大阪）、名古屋支店（愛知）、北海道事務所（北海道）、九州事務所（福岡）
東京キャピタルマネジメント株式会社	本社（東京）
NSコーポレーション株式会社	本社（東京）、東戸塚営業所（神奈川）
株式会社日本環境ソリューション	本社（東京）
株式会社エヌ・ケイ・ジェイ・ホールディングス	本社（大阪）
日本住宅管理株式会社	本社（大阪）、関東支店（東京）、神戸支店（兵庫）、岡山支店（岡山）
株式会社エヌ・ジェイ・ケイ・スタッフサービス	本社（大阪）、東京支店（東京）
株式会社沖縄日本管財	本社（沖縄）
日本管財住宅管理株式会社	本社（兵庫）、北海道支店（北海道）、関東支店（東京）、中部支店（愛知）、近畿支店（大阪）、九州支店（福岡）、神戸営業所（兵庫）
NIPPON KANZAI USA, Inc.	本社（アメリカ合衆国ニューヨーク州）

(注) 当社は、連結子会社であった株式会社日本管財サービスを平成29年12月1日付で、吸収合併（簡易合併）しております。

## 12. 企業集団の使用人の状況 (平成30年3月31日現在)

使用人数	前期末比増減数
9,514名	59名減

(注) 使用人数は就業人員数であり、臨時雇用者数(年間平均人員3,295名)は含んでおりません。

## 13. 企業集団の重要な借入先及び借入額 (平成30年3月31日現在)

借入先	借入残高
シンジケートローン	2,250,000千円
株式会社あおぞら銀行	390,000千円
株式会社北洋銀行	365,000千円
株式会社福岡銀行	310,000千円
株式会社三井住友銀行	100,000千円

- (注) 1. シンジケートローンは、株式会社三井住友銀行を主幹事とする3金融機関からの協調融資であります。  
2. 株式会社あおぞら銀行、株式会社北洋銀行及び株式会社福岡銀行からの借入額はノンリコースローンによるものであります。

## 14. その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2 会社の株式に関する事項 (平成30年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数 160,000,000株
2. 発行済株式の総数 34,383,544株 (自己株式6,796,762株を除く。)
3. 株主数 32,391名 (前期末比 8,060名増)
4. 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本サービスマスター有限会社	11,652,162	33.89
福田 慎太郎	2,064,502	6.00
福田 武	1,216,808	3.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,071,900	3.12
日本管財社員持株会	752,102	2.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	715,900	2.08
福田 紀子	682,650	1.99
明治安田生命保険相互会社	556,200	1.62
三菱UFJ信託銀行株式会社	474,368	1.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	391,100	1.14

(注) 持株比率は自己株式数 (6,796,762株) を控除して計算しております。

### 5. その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 3 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 会社役員に関する事項

### 1. 取締役の氏名等 (平成30年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役会長	福 田 武	(株)スリーエス代表取締役社長
代表取締役社長	福 田 慎 太 郎	日本サービスマスター(有)取締役
専 務 取 締 役	安 田 守	管理統轄本部長 NIPPON KANZAI USA, Inc.取締役社長
専 務 取 締 役	徳 山 良 一	技術統轄本部長 (株)日本環境ソリューション代表取締役社長
専 務 取 締 役	高 橋 邦 夫	営業統轄本部長 (株)FCHパートナーズ代表取締役社長 (株)大分駅南コミュニティサービス代表取締役社長
常 務 取 締 役	原 田 康 弘	総合企画・グループ企業統括・単連業績管理担当 兼管理統轄本部財務部長
常 務 取 締 役	赤 井 利 生	住宅事業兼公共住宅管理事業担当 (株)エヌ・ケイ・ジェイ・ホールディングス代表取締役社長
常 務 取 締 役	大 原 嘉 昭	業務統轄本部長 (株)上越シビックサービス代表取締役副社長
取 締 役	城 野 茂	(株)日本プロパティ・ソリューションズ代表取締役会長
取 締 役	天 野 健 二	(株)スリーエス代表取締役副社長
取 締 役	若 松 雅 弘	営業統轄本部本部長代理兼東日本担当兼東日本開発営業部長
取 締 役	松 浦 秀 隆	人事・秘書担当兼人事部長兼管理統轄本部総務部長
取 締 役	森 本 和 彦	営業統轄本部西日本担当兼西日本開発営業部長
取締役(監査等委員)	小 南 博 司	
取締役(監査等委員)	山 下 義 郎	(株)カシワテック代表取締役社長 (株)シーメイト取締役会長
取締役(監査等委員)	小 菅 康 太	(株)コスガの家具代表取締役
取締役(監査等委員)	乾 新 悟	乾汽船(株)顧問

- (注) 1. 取締役(監査等委員) 山下義郎、小菅康太、乾 新悟の各氏は、社外取締役であります。
2. 取締役(監査等委員) 山下義郎、小菅康太、乾 新悟の各氏は、株式会社東京証券取引所の定める独立役員であります。
3. 当社は、情報収集力の充実及び内部監査部門等との連携を通じて監査の実効性を高め、監査・監督機能を強化するために、小南博司氏を常勤の監査等委員として選定しております。
4. 平成29年6月16日開催の第52期定時株主総会終結の時をもって、任期満了により、西岡信壽氏及び小南博司氏は取締役を、牧野 宏氏及び丹羽建蔵氏は取締役(監査等委員)を退任いたしました。
5. 平成29年6月16日開催の第52期定時株主総会において、松浦秀隆氏及び森本和彦氏が取締役に、小南博司氏及び乾 新悟氏が取締役(監査等委員)に新たに選任され、就任いたしました。
6. 平成29年6月16日付にて、原田康弘、赤井利生及び大原嘉昭の各氏は、常務取締役に昇任いたしました。

7. 平成29年8月1日付にて、地位及び担当が次のとおり変更されました。

新	氏名	旧
取締役 株式会社日本プロパティ・ソリューションズ 顧問	城野 茂	専務取締役 総合企画・グループ企業統括・ 単業績管理担当

8. 平成29年8月15日付にて、地位及び担当が次のとおり変更されました。

新	氏名	旧
取締役 株式会社日本プロパティ・ソリューションズ 代表取締役会長	城野 茂	取締役 株式会社日本プロパティ・ソリューションズ 顧問

9. 平成30年4月1日付にて、地位及び担当が次のとおり変更されました。

新	氏名	旧
常務取締役 総合企画・グループ企業統括・ 単業績管理担当 兼管理統轄本部本部長代理	原田 康弘	常務取締役 総合企画・グループ企業統括・ 単業績管理担当 兼管理統轄本部財務部長
常務取締役 営業統轄本部本部長代理 兼東日本・中部担当	若松 雅弘	取締役 営業統轄本部本部長代理 兼東日本担当 兼東日本開発営業部長
取締役 人事・秘書担当 兼人事部長	松浦 秀隆	取締役 人事・秘書担当 兼人事部長 兼管理統轄本部総務部長

## 2. 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）が、その期待される役割を十分に発揮できるよう、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）との間で責任限定契約を締結することができる旨を定款に定めております。当社は、取締役（監査等委員）小南博司、山下義郎、小菅康太、乾 新悟の各氏との間で当該責任限定契約を締結しております。

その契約内容の概要は次のとおりであります。

- ・取締役（監査等委員）が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第425条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
- ・上記の責任限定が認められるのは、取締役（監査等委員）がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

### 3. 取締役の報酬等の額

区 分	支給人数 (名)	報酬等の額 (千円)	摘 要
取締役 (監査等委員であるものを除く。)	15	464,215	
取締役 (監査等委員) (うち 社外取締役)	6 (4)	29,874 (14,236)	
合 計	21	494,090	

- (注) 1. 平成29年6月16日開催の第52期定時株主総会決議に基づき、取締役 (監査等委員であるものを除く。) の報酬額を、年額800,000千円以内、取締役 (監査等委員) の報酬額を、年額50,000千円以内と決議いただいております。
2. 上記の支給人数には、平成29年6月16日開催の第52期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役 (監査等委員であるものを除く。) 2名 (小南博司氏、西岡信壽氏)、取締役 (監査等委員) 2名 (牧野 宏氏、丹羽建蔵氏) を含んでおります。
3. 小南博司氏は、第52期定時株主総会において取締役 (監査等委員であるものを除く。) を退任した後、取締役 (監査等委員) に就任したため、人数及び支給額について前者の期間は取締役 (監査等委員であるものを除く。) に、後者の期間は取締役 (監査等委員) に含めて記載しております。そのため、合計についても、小南博司氏を取締役 (監査等委員を除く) として1名、取締役 (監査等委員) としても1名と数えております。

### 4. 社外役員に関する事項

- ① 重要な兼職先である法人等と当社との関係
- ・社外取締役 (監査等委員) 山下義郎氏の兼職先である(株)カシワテック及び(株)シーメイトとは、特別の関係はありません。
  - ・社外取締役 (監査等委員) 小菅康太氏の兼職先である(株)コスガの家具とは、特別の関係はありません。
  - ・社外取締役 (監査等委員) 乾 新悟氏の兼職先である乾汽船(株)とは、特別の関係はありません。
- ② 当事業年度における主な活動状況
- ・取締役会及び監査等委員会への出席状況

区 分	氏 名	取締役会 出席回数	監査等委員会 出席回数
社 外 取 締 役 ( 監 査 等 委 員 )	山 下 義 郎	17/18	13/14
	小 菅 康 太	18/18	14/14
	乾 新 悟	13/13	10/10

(注) 社外取締役 (監査等委員) 乾 新悟氏は、就任後の取締役会及び監査等委員会の全てに出席しております。

- ・取締役会及び監査等委員会での発言状況  
各社外取締役 (監査等委員) は、取締役会で、それぞれの知識、経験及び専門性を活かし、主に法令遵守の見地から、質問及び意見を述べております。また、監査等委員会では、取締役の業務執行状況、内部統制システムの整備及び運用状況、重要書類の監査等について意見交換及び審議を行っております。  
その他、日頃から、法令遵守の徹底等についての注意喚起も行ってまいります。

## 5 会計監査人の状況

### 1. 会計監査人の名称

PwCあらた有限責任監査法人

### 2. 報酬等の額

① 当事業年度に係る報酬等の額

50,000千円

② 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

50,000千円

- (注) 1. 当社監査等委員会は、会計監査人の報酬等について、取締役、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料を入手し、報告を受けた上で、会計監査人の従前の活動実績及び報酬実績を確認し、当事業年度における会計監査人の活動計画及び報酬見積りの算出根拠の適正性等について必要な検証を行い、審議した結果、これらについて適正であると判断したため、会計監査人の報酬等の額について、会社法第399条第1項の同意を行っております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、「会社法」に基づく監査と「金融商品取引法」に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておりませんので、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。

### 3. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社監査等委員会では、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

なお、再任もしくは不再任につきましては、会計監査人の継続年数等を勘案し、監査等委員会は、株主総会に提出する会計監査人の不再任に関する議案の内容を決定いたします。

## 6 業務の適正を確保するための体制に関する事項

### 1. 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社グループは、コンプライアンス体制の基礎として、「グループ企業倫理行動指針」及び「コンプライアンス基本規程」を定めております。  
当社は、管理統轄本部長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、内部統制システムの構築・維持・向上を推進するとともに、その事務局を総務部に置き、当社のコンプライアンス体制の整備及び維持を図ることとします。  
また、子会社は個別にコンプライアンス体制を整備・維持し、当社はその助言・指導を行います。
- ② 当社及び子会社の取締役、使用人等は、当社又は子会社における重大な法令違反その他コンプライアンス上の重要な問題を発見した場合には、直ちに当社の監査等委員会又は子会社の監査役に報告するものとします。
- ③ 当社グループの法令違反その他のコンプライアンスに関する事実についての社内報告体制として、当社グループ社内通報システムを整備し、「社内通報規程」に基づきその運用を行うこととします。
- ④ 当社の内部監査・内部統制・ISO管理部は、当社及び子会社に対し、「内部監査規程」に基づき、法令及び社内規程の遵守状況及び業務の効率性等について監査し、その結果を社長に報告しております。
- ⑤ 当社の監査等委員会は、当社グループのコンプライアンス体制及び社内通報システムの運用に問題があると認めるときは、意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることができます。

### 2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令・社内規程に基づき、文書等の保存及び管理を行います。

また、情報の管理については、「情報システム管理規程」「個人情報保護基本規程」に基づき適切に対応します。

### 3. 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 当社は、「コンプライアンス委員会」内に、子会社はその管理担当部門に、それぞれ自社のリスク管理全体を統括する組織を設け、自社の業務執行に係るリスクを認識し、その把握と管理についての体制を整えることとします。また、当社は子会社のリスク管理体制について、指導・助言を行います。

- ② 当社グループを対象とする「危機管理規程」を定め、当社及び子会社において重大な不測の事態が発生した場合には、必要に応じ、社長を本部長とする対策本部を設置し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止しこれを最小限に止める体制を整えます。
- ③ 当社グループの重要な投資案件の収益性、事業戦略性、運営上のリスクを事前に検討し、また、事後のモニタリングを実施するための取締役会の諮問機関として「投資委員会」「運営リスク検討委員会」を設け、当社グループの投資案件に関するリスク管理体制を強化します。

#### 4. 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 定例の取締役会を毎月1回開催し、「取締役会規程」及び「取締役会付議基準」による重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督を行います。また、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については事前に役付取締役によって構成される常務会において議論を行い、その審議を経て執行決定を行うものとしします。
- ② 業務の運営については、年度毎に当社グループ全体の経営計画を策定し、これを当社及び子会社各部門の業務目標に落とし込み、月次で経営会議にて業績管理を行います。
- ③ 取締役会の決定に基づく業務執行については、「組織規程」「職務分掌規程」「職務権限規程」において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続きの詳細について定め運用します。

#### 5. 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

- ① グループ会社における業務の適正を確保するため「グループ企業倫理行動指針」をグループ会社全てに適用します。  
 当社は、担当役員及び担当部署を置き、「関係会社管理規程」に従い、グループ経営会議での報告により当社への裁裁・報告制度による子会社経営の管理を行うものとし、必要に応じてモニタリングを行うものとしします。  
 取締役は、グループ会社において、重大な法令違反その他コンプライアンス上の重要な問題を発見した場合には直ちに、監査等委員会に報告するものとしします。
- ② 子会社の取締役及び使用人は当社からの経営管理、経営指導内容が法令に違反し、その他コンプライアンス上問題があると認めた場合には、内部監査・内部統制・ISO管理部又はコンプライアンス委員会に報告するものとしします。内部監査・内部統制・ISO管理部又はコンプライアンス委員会は直ちに監査等委員会に報告を行うとともに、意見を述べることもできますものとしします。監査等委員会は意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることもできますものとしします。

---

## 6. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の監査等委員以外の取締役からの独立性に関する事項、及び当該使用人に関する指示の実効性に関する事項

監査等委員会はその職務を補助させるため、監査等委員室所属の職員に必要な事項を命令することができるものとし、監査等委員会よりその業務に必要な命令を受けた職員は、その命令に関して、監査等委員以外の取締役の指揮命令を受けないものとします。

## 7. 当社及び子会社の取締役、使用人等が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制及び監査等委員会の業務が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 当社及び子会社の取締役、使用人等は、当社又は子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実、取締役の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実を発見した場合には当該事実を、また、これらの者からこれらの事実について報告を受けたものは当該事実を、それぞれ監査等委員会に都度報告するものとします。前記にかかわらず、監査等委員会はいつでも必要に応じて、当社又は子会社の取締役、使用人等に対して当社又は子会社の事業、業務又は財産に関する事項の報告を求めることができることとします。
- ② 当社グループを対象とする社内通報により、重大な法令違反その他コンプライアンス上の重要な問題が生じたときは、監査等委員会へ報告するものとします。
- ③ 当社及び子会社の取締役、使用人等は、監査等委員会の求めに応じて事業の報告を行うとともに、当社グループの業務及び財産の状況の調査に協力します。

## 8. 監査等委員会へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な扱いを受けないことを確保する体制

当社及び子会社は、監査等委員会へ報告を行った当社又は子会社の取締役、使用人等に対して、当該報告をしたことを理由として不利な扱いを行うことを禁止します。

## 9. 監査等委員の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理、費用の前払又は償還の手續きに係る方針

監査等委員の職務の執行に必要な費用又は債務は当社が負担し、会社法に基づく費用の前払い等の請求があった場合はこれに応じます。

## 10. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

### ① 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは断絶し、毅然とした態度でこれを排除します。

### ② 反社会的勢力排除に向けた整備状況

(i) 「グループ企業倫理行動指針」や各種取引契約書へ反社会的勢力排除項目を追記してまいります。

(ii) 対応統括部署及び不当要求防止責任者の設置状況

当社は、反社会的勢力への対応を統括する部署を総務部とし、不当要求防止責任者を設置しております。また、反社会的勢力による不当要求等に対しては、直ちに対応統括部署へ報告・相談する体制を整備してまいります。

(iii) 外部専門機関との連携状況

当社は、警察が主催する連絡会等に参加し、平素より顧問弁護士等の外部の専門機関と連携を深め、業界、地域社会と協力し、反社会的勢力への対応に関する指導をいただいております。

(iv) 反社会的勢力に関する情報の収集・管理状況

当社は、反社会的勢力の情報を総務部にて一元管理し、取引先等の反社会的勢力排除に努め、当該情報を社内での注意喚起等に活用します。

(注) 平成30年4月1日付をもって、「内部監査・内部統制・ISO管理部」を発展的に分割して「内部監査室」「内部統制室」「品質管理部」に、「総務部」を「総務・労務部」に、「監査等委員室」を「監査等委員会事務局」に組織変更しました。

---

## 7 業務の適正を確保するための体制の運用状況

当事業年度における当社の職務及び業務の適正を確保するための体制についての運用状況は以下のとおりであります。

- ① 当社は、平成27年6月26日開催の第50期定時株主総会決議に基づき、監査等委員会設置会社に移行しております。監査等委員会は、過半数を社外取締役で構成し、業務執行の適法性、妥当性の監査・監督機能を担うことで透明性の高い経営を実現することを目的としております。
- ② 定例のコンプライアンス委員会を年2回開催し、適宜、臨時のコンプライアンス委員会を開催することで、コンプライアンス施策の検討やその実施状況のモニタリング、違反事例の分析や再発防止策の策定等について議論いたしました。
- ③ 取締役・執行役員を含む部門長及びグループ会社のコンプライアンス担当役員に対して、年1回コンプライアンス推進責任者研修会を開催するとともに、グループ会社の担当者を含めた管理職に対して、年1回コンプライアンス管理職研修会を開催することで、実践的な集合研修を実施し、法令遵守に向けた取り組みを継続的に行いました。
- ④ 投資委員会を適宜開催し、重要な投資案件の運営上のリスク等の事前検討や、投資案件の事後のモニタリングを実施いたしました。
- ⑤ 当期は臨時を含め、取締役会を18回開催し、経営方針及び経営戦略に関わる重要事項の決定並びに各取締役の業務執行状況の監督を行いました。
- ⑥ グループ経営会議を年4回開催し、子会社経営の管理及びモニタリングを行いました。
- ⑦ 当社グループの法令違反その他のコンプライアンスに関する事実についての社内報告体制として、社内通報システムを整備し、その通報件数及びその概要並びに調査結果は、定期的に監査等委員会に報告しております。

---

本事業報告中に記載の金額は、表示単位未満の端数を切り捨て、比率は四捨五入により表示しております。

# 連結計算書類

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>39,229,383</b>
現金及び預金	22,002,217
受取手形及び売掛金	14,097,157
事業目的匿名組合出資金	27,948
貯蔵品	121,457
販売用不動産	1,476,174
未収還付法人税等	139,994
繰延税金資産	365,594
その他	1,007,139
貸倒引当金	△8,301
<b>固定資産</b>	<b>29,644,052</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>5,251,365</b>
建物及び構築物	3,288,497
機械装置及び運搬具	49,966
工具・器具・備品	450,529
土地	1,154,050
リース資産	300,491
建設仮勘定	7,830
<b>無形固定資産</b>	<b>2,425,515</b>
電話加入権	46,525
ソフトウェア	309,262
のれん	1,971,427
リース資産	9,328
ソフトウェア仮勘定	88,970
<b>投資その他の資産</b>	<b>21,967,170</b>
投資有価証券	16,143,073
長期貸付金	542,950
長期前払費用	35,641
賃借不動産保証金・敷金	3,523,815
各種会員権	393,135
退職給付に係る資産	746,883
繰延税金資産	289,820
その他	354,964
貸倒引当金	△63,114
<b>資産合計</b>	<b>68,873,435</b>

科目	金額
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>16,925,273</b>
支払手形及び買掛金	8,607,084
1年内返済予定の長期借入金	2,350,000
1年内返済予定の長期ノンリコースローン	13,900
リース債務	107,292
未払費用	2,685,542
未払法人税等	949,574
未払消費税等	768,043
預り金	614,827
前受金	169,529
賞与引当金	642,062
その他	17,417
<b>固定負債</b>	<b>6,744,778</b>
長期ノンリコースローン	1,051,100
リース債務	209,067
繰延税金負債	1,563,361
退職給付に係る負債	432,279
預り保証金	2,517,391
資産除去債務	264,294
持分法適用に伴う負債	4,551
その他	702,732
<b>負債合計</b>	<b>23,670,052</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>41,251,433</b>
資本金	3,000,000
資本剰余金	646,943
利益剰余金	42,567,483
自己株式	△4,962,993
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>2,933,159</b>
その他有価証券評価差額金	3,724,531
為替換算調整勘定	△540,087
退職給付に係る調整累計額	△251,285
<b>非支配株主持分</b>	<b>1,018,790</b>
<b>純資産合計</b>	<b>45,203,383</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>68,873,435</b>

連結損益計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		96,478,695
売 上 原 価		77,645,613
売 上 総 利 益		18,833,081
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		13,061,002
営 業 利 益		5,772,079
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	189,702	
受 取 賃 貸 料	54,363	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	367,588	
保 険 配 当 金	38,389	
為 替 差 益	25,210	
そ の 他	83,364	758,618
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	27,923	
賃 貸 資 産 関 連 費 用	44,398	
固 定 資 産 除 却 損	50,412	
そ の 他	28,554	151,287
経 常 利 益		6,379,409
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 売 却 益	226,199	226,199
特 別 損 失		
事 業 分 離 に お け る 移 転 損 失	30,388	30,388
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		6,575,220
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,965,690	
法 人 税 等 調 整 額	75,119	2,040,810
当 期 純 利 益		4,534,410
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		87,581
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		4,446,828

## 連結株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,000,000	618,090	39,564,782	△ 4,961,569	38,221,303
当期変動額					
剰余金の配当 (前期末)			△722,069		△722,069
剰余金の配当 (中間)			△722,058		△722,058
親会社株主に帰属する 当期純利益			4,446,828		4,446,828
自己株式の取得				△1,423	△1,423
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		28,852			28,852
当期変動額合計	—	28,852	3,002,700	△1,423	3,030,130
当期末残高	3,000,000	646,943	42,567,483	△4,962,993	41,251,433

	その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,834,552	△ 729,421	△ 230,617	1,874,514	1,368,718	41,464,536
当期変動額						
剰余金の配当 (前期末)						△722,069
剰余金の配当 (中間)						△722,058
親会社株主に帰属する 当期純利益						4,446,828
自己株式の取得						△1,423
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動						28,852
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	889,978	189,333	△20,667	1,058,644	△349,927	708,716
当期変動額合計	889,978	189,333	△20,667	1,058,644	△349,927	3,738,846
当期末残高	3,724,531	△540,087	△251,285	2,933,159	1,018,790	45,203,383

## 貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>22,203,123</b>	<b>流動負債</b>	<b>11,807,359</b>
現金及び預金	10,929,086	支払手形	24,586
受取手形	34,161	買掛金	5,691,307
売掛金	8,640,356	1年内返済予定の長期借入金	2,350,000
貯蔵品	45,895	リース債務	50,799
前払費用	264,201	未払金	446,747
未収入金	27,097	未払法人税等	424,046
短期貸付金	1,849,289	未払消費税等	282,938
立替金	224,500	未払給料	581,328
繰延税金資産	152,974	未払社会保険料	423,552
その他	36,940	預り金	329,691
貸倒引当金	△1,380	関係会社預り金	800,000
<b>固定資産</b>	<b>24,649,434</b>	前受金	85,390
<b>有形固定資産</b>	<b>3,653,373</b>	賞与引当金	300,334
建物	2,044,134	その他	16,636
構築物	149,091	<b>固定負債</b>	<b>2,588,304</b>
機械装置	984	リース債務	123,093
車両運搬具	10,959	繰延税金負債	1,312,954
工具・器具・備品	297,901	預り保証金	338,263
土地	988,496	資産除去債務	119,790
リース資産	161,805	その他	694,202
<b>無形固定資産</b>	<b>301,883</b>	<b>負債合計</b>	<b>14,395,663</b>
電話加入権	19,547	<b>純資産の部</b>	
ソフトウェア	229,875	<b>株主資本</b>	<b>28,839,046</b>
リース資産	8,650	<b>資本金</b>	<b>3,000,000</b>
ソフトウェア仮勘定	43,810	<b>資本剰余金</b>	<b>618,090</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>20,694,176</b>	資本準備金	498,800
投資有価証券	9,228,739	その他資本剰余金	119,290
関係会社株式	8,913,545	<b>利益剰余金</b>	<b>30,183,949</b>
長期貸付金	25,961	利益準備金	251,200
関係会社長期貸付金	371,717	その他利益剰余金	29,932,749
長期前払費用	688	別途積立金	12,310,000
前払年金費用	751,200	繰越利益剰余金	17,622,749
賃借不動産保証金・敷金	875,063	<b>自己株式</b>	<b>△4,962,993</b>
各種会員権	350,620	<b>評価・換算差額等</b>	<b>3,617,847</b>
長期滞留債権	22,216	その他有価証券評価差額金	3,617,847
賃貸建物	63,966		
賃貸土地	53,739		
その他	91,302		
貸倒引当金	△54,583		
<b>資産合計</b>	<b>46,852,558</b>	<b>純資産合計</b>	<b>32,456,894</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>46,852,558</b>

## 損益計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		58,471,408
売 上 原 価		48,061,375
売 上 総 利 益		10,410,032
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		7,174,258
営 業 利 益		3,235,774
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	35,870	
受 取 配 当 金	1,575,788	
受 取 賃 貸 料	54,363	
保 険 配 当 金	28,211	
受 取 経 営 指 導 料	36,000	
為 替 差 益	25,210	
雑 収 入	47,886	1,803,330
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	32,300	
賃 貸 資 産 関 連 費 用	44,398	
固 定 資 産 除 却 損	10,222	
雑 損 失	9,313	96,234
経 常 利 益		4,942,870
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 売 却 益	204,699	
抱 合 せ 株 式 消 滅 差 益	1,508,826	1,713,526
税 引 前 当 期 純 利 益		6,656,396
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,048,051	
法 人 税 等 調 整 額	20,452	1,068,504
当 期 純 利 益		5,587,891

## 株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	3,000,000	498,800	119,290	618,090
当期変動額				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	3,000,000	498,800	119,290	618,090

	株 主 資 本					株主資本合計
	利益準備金	利益剰余金			自己株式	
		別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	251,200	12,310,000	13,478,985	26,040,185	△ 4,961,569	24,696,706
当期変動額						
剰余金の配当 (前期末)			△722,069	△722,069		△722,069
剰余金の配当 (中間)			△722,058	△722,058		△722,058
当期純利益			5,587,891	5,587,891		5,587,891
自己株式の取得					△1,423	△1,423
当期変動額合計	—	—	4,143,763	4,143,763	△1,423	4,142,340
当期末残高	251,200	12,310,000	17,622,749	30,183,949	△4,962,993	28,839,046

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,761,325	2,761,325	27,458,031
当期変動額			
剰余金の配当 (前期末)			△722,069
剰余金の配当 (中間)			△722,058
当期純利益			5,587,891
自己株式の取得			△1,423
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	856,522	856,522	856,522
当期変動額合計	856,522	856,522	4,998,862
当期末残高	3,617,847	3,617,847	32,456,894

## 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

### 独立監査人の監査報告書

平成30年5月11日

日本管財株式会社  
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 西川 浩司 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本管財株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本管財株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成30年5月11日

日本管財株式会社  
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 西川 浩司 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本管財株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第53期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査等委員会の監査報告書 謄本

## 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第53期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社・本店及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役と意思疎通及び情報の交換を図り必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人PwCあらた有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人PwCあらた有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年5月15日

日本管財株式会社	監査等委員会				
	監査等委員長	小	南	博	司 ㊟
	監査等委員	山	下	義	郎 ㊟
	監査等委員	小	菅	康	太 ㊟
	監査等委員	乾		新	悟 ㊟

(注) 監査等委員山下義郎、小菅康太及び乾新悟は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、株主の皆様に対する配当政策を最重要課題のひとつとして位置付け、利益還元策として業績に応じた適正な成果配分を行うことを基本方針としており、あわせて今後の事業展開と経営体質の強化にも充分配慮しております。当期の期末配当につきましては、1株につき21円といたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類  
金銭といたします。
- (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金21円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は、722,054,424円となります。
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成30年6月18日

### 第2号議案 取締役（監査等委員であるものを除く。）12名選任の件

本総会終結の時をもって取締役（監査等委員であるものを除く。）全員（13名）が任期満了となります。つきましては、取締役（監査等委員であるものを除く。）12名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しまして、取締役（監査等委員であるものを除く。）候補者の選任につきましては、監査等委員会において審議の結果、適任であると判断されました。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
1	ふくだ たけし 福田 武 (昭和15年9月6日生)	昭和40年10月 当社設立代表取締役社長就任 昭和47年8月 (株)日本管財サービス設立代表取締役社長就任 昭和53年12月 (株)スリーエス設立代表取締役社長就任(現任) 平成14年4月 (株)エヌ・ケイ・エス代表取締役会長 平成20年4月 当社代表取締役会長(現任)	1,216,808株
<p><b>【選任の理由】</b> これまで当社グループの経営全般に携わり、現在は代表取締役会長として強いリーダーシップで当社グループを牽引するとともに、業務執行の監督を担っております。業界事情並びに当社事業に精通し、豊富な経験に基づく高度な知見、決断力を有している点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
2	ふく だ しんたろう 福田 慎太郎 (昭和40年6月29日生)	平成10年3月 当社入社 情報統括責任者 平成10年6月 当社取締役情報統括責任者 平成11年6月 当社常務取締役企画担当 平成14年8月 (株)日本プロパティ・ソリューションズ 代表取締役社長 平成14年10月 当社専務取締役総合企画室担当兼情報 システム室担当 平成17年6月 (株)日本プロパティ・ソリューションズ 取締役会長 平成18年10月 日本サービスマスター(有)取締役 (現任) 平成20年4月 当社代表取締役社長 (現任)	2,064,502株
<p><b>【選任の理由】</b> これまで当社における業容拡大や経営改革を推進し、現在は代表取締役社長として強いリーダーシップで当社グループを牽引しております。業界事情及び当社事業に精通し、豊富な経験に基づく高度な知見、先見性を有している点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			
3	やす だ まもる 安田 守 (昭和30年6月18日生)	昭和56年4月 当社入社 平成16年6月 当社取締役総合企画室長 平成19年2月 当社常務取締役営業統轄本部副本部長 東日本担当 平成22年5月 ティ・エヌ・ケイビル管理(株)代表取締役 役社長 平成23年6月 当社専務取締役総合企画担当 グループ 企業経営効率化担当 平成23年10月 NIPPON KANZAI USA, Inc.取締役 社長 (現任) 平成24年4月 当社専務取締役管理統轄本部長 (現任)	37,526株
<p><b>【選任の理由】</b> 営業部門や建物管理運営部門、管理部門に携わり、幅広く豊富な実務経験を有しております。現在は管理部門を統括するとともに当社グループの戦略目標の実現に向けた企画立案等を指揮しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			
4	とく やま よし かず 徳山 良一 (昭和31年12月3日生)	昭和54年4月 当社入社 平成22年6月 (株)日本環境ソリューション代表取締役 社長 (現任) 平成23年6月 当社専務取締役営業部門担当 平成23年10月 (株)FCHパートナーズ代表取締役社長 平成25年12月 当社専務取締役企業戦略担当 平成29年4月 当社専務取締役技術統轄本部長 (現任)	5,700株
<p><b>【選任の理由】</b> 営業部門や企画部門、技術部門に携わり、幅広く豊富な実務経験を有しております。現在は当社の技術部門・購買部門・品質管理部門を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
5	たか はし くに お <b>高橋 邦夫</b> (昭和29年10月11日生)	平成22年6月 当社常務取締役東京駐在 平成24年6月 当社専務取締役技術統轄本部長 平成25年12月 当社専務取締役業務統轄本部長 平成26年6月 (株)上越シビックサービス代表取締役副社長 平成29年4月 当社専務取締役営業統轄本部長 (現任) 平成29年6月 (株)FCHパートナーズ代表取締役社長 (現任) (株)大分駅南コミュニティサービス代表取締役社長 (現任)	2,300株
		<b>[選任の理由]</b> 金融業界での豊富な実務経験を基に当社経営に携わり、現在は新規顧客の開拓や重要顧客との関係強化をはじめ全国の営業を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。	
6	はら だ やす ひろ <b>原田 康弘</b> (昭和35年2月20日生)	昭和57年6月 当社入社 平成23年6月 当社取締役財務部長 平成27年4月 当社取締役業績管理担当兼業績管理部長兼管理統轄本部財務部長 平成29年4月 当社取締役総合企画・グループ企業統括・単連業績管理担当兼管理統轄本部財務部長 平成29年6月 当社常務取締役総合企画・グループ企業統括・単連業績管理担当兼管理統轄本部財務部長 平成30年4月 当社常務取締役総合企画・グループ企業統括・単連業績管理担当兼管理統轄本部本部長代理 (現任)	30,446株
		<b>[選任の理由]</b> 経理・財務部門に携わり豊富な実務経験を有しており、現在は当社及び当社グループの業績管理部門並びに経営企画を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。	

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
7	あか い とし お 赤井利生 (昭和34年2月15日生)	昭和56年4月 当社入社 平成23年6月 当社取締役人事総務部長 平成26年11月 当社取締役管理統轄本部総務部長 平成28年4月 当社取締役住宅事業兼公共住宅管理事業担当 平成29年4月 (株)エヌ・ケイ・ジェイ・ホールディングス代表取締役社長(現任) 平成29年6月 当社常務取締役住宅事業兼公共住宅管理事業担当(現任)	10,200株
<p><b>[選任の理由]</b> 建物管理運営部門や管理部門に携わり豊富な実務経験を有しており、現在は当社グループの主たる事業を担う住宅管理部門を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			
8	おお はら よし あき 大原嘉昭 (昭和37年1月14日生)	昭和57年4月 当社入社 平成26年6月 当社取締役業務統轄本部本部長代理兼西日本担当 平成29年4月 当社取締役業務統轄本部長 平成29年6月 当社常務取締役業務統轄本部長(現任) (株)上越シビックサービス代表取締役副社長(現任)	13,600株
<p><b>[選任の理由]</b> 建物管理運営部門に携わり現場に精通した豊富な経験・知識を有しており、現在は当社の建物管理運営部門を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			
9	わか まつ まさ ひろ 若松雅弘 (昭和36年5月11日生)	昭和60年2月 当社入社 平成26年6月 当社取締役業務統轄本部技術・購買担当兼エンジニアリングマネジメント本部長 平成28年4月 当社取締役業務統轄本部技術・購買・品質業務管理担当兼エンジニアリングマネジメント本部長 平成29年4月 当社取締役営業統轄本部本部長代理兼東日本担当兼東日本開発営業部長 平成30年4月 当社常務取締役営業統轄本部本部長代理兼東日本・中部担当(現任)	5,164株
<p><b>[選任の理由]</b> 建物管理運営部門に携わり現場に精通した豊富な経験・知識を有しており、現在は新規顧客の開拓や重要顧客との関係強化をはじめ、東日本・中部エリアを中心に全国の営業を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
10	じょうのしげる 城野 茂 (昭和27年10月4日生)	昭和54年9月 当社入社 平成18年6月 当社取締役営業統轄本部近畿・中部担当 平成21年10月 (株)大分駅南コミュニティサービス代表取締役社長 平成22年8月 当社常務取締役西日本開発営業部長 平成26年6月 当社専務取締役営業統轄本部長 平成29年4月 当社専務取締役総合企画・グループ企業統括・単連業績管理担当 平成29年8月 当社取締役(現任) (株)日本プロパティ・ソリューションズ代表取締役会長(現任)	20,500株
	【選任の理由】 営業部門や建物管理運営部門に携わり、豊富な実務経験を有しております。現在は重要なグループ企業である(株)日本プロパティ・ソリューションズの代表取締役会長を兼任しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。		
11	まつうらひでたか 松浦 秀隆 (昭和38年10月16日生)	昭和61年4月 当社入社 平成29年6月 当社取締役人事・秘書担当兼人事部長 兼管理統轄本部総務部長 平成30年4月 当社取締役人事・秘書担当兼人事部長 (現任)	15,300株
	【選任の理由】 建物管理運営部門や管理部門、人事部門等に携わり豊富な実務経験を有しており、現在は当社の人事部門・秘書部門を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。		
12	もりもとかずひこ 森本 和彦 (昭和37年10月7日生)	昭和61年12月 当社入社 平成29年6月 当社取締役営業統轄本部西日本担当兼西日本開発営業部長(現任)	7,600株
	【選任の理由】 建物管理運営部門に携わり現場に精通した豊富な経験・知識を有しており、現在は当社の西日本エリアの開発営業部門を統括しております。当社事業に係る高度な知見を有する点を踏まえ、当社グループの持続的な企業価値向上のため、引き続き取締役として適任と判断しました。		

- (注) 1. 取締役候補者 福田 武氏は、株式会社スリーエスの代表取締役社長を兼務しており、当社と同社との間に営業取引(経営指導及び役務提供)及び賃貸料の受取等の取引関係があります。
2. 取締役候補者 福田慎太郎氏は、日本サービスマスター有限会社の取締役を兼務しており、当社と同社との間に損害保険料の支払及び事務手数料の受取の取引関係があります。
3. 取締役候補者 高橋邦夫氏は、株式会社FCHパートナーズの代表取締役社長及び株式会社大分駅南コミュニティサービスの代表取締役社長を兼務しており、当社と同社との間に役務提供による営業取引関係があります。
4. 取締役候補者 大原嘉昭氏は、株式会社上越シビックサービスの代表取締役副社長を兼務しており、当社と同社との間に役務提供による営業取引関係があります。
5. その他の取締役候補者と当社との間には、いずれも特別の利害関係はありません。

以上





# 株主総会会場ご案内図

**会場** 兵庫県西宮市六湛寺町9番16号  
当社 本店 大会議室  
電話 (0798) 35-2200 (代)



## 最寄駅から当社へのアクセス経路及び所要時間

**経路①** JR西宮駅「南口」▶国道2号線▶当社（徒歩**10**分程度）

**経路②** 阪神西宮駅「市役所口」▶市役所前線▶国道2号線▶当社（徒歩**5**分程度）

**経路③** 阪神西宮駅「えびす口」▶札場筋線（国道171号線）▶国道2号線▶当社（徒歩**8**分程度）

※ 駐車場のご用意がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。